

内科

大腸がんに関連する腸内細菌について

歯周病の原因の一つとして知られ、歯垢に存在するフソバクテリウム・ヌクレアタム（以下 Fn 菌と略）という菌が、大腸がんに関連しているという研究があります。正常な大腸粘膜に比べ大腸がんの原発巣と転移巣の両方に Fn 菌が大量に存在し、細菌に対して有効な抗生物質を使ったところ、病巣の発育進展が抑えられたというマウス

での実験結果も発表され、Fn 菌が産生した酪酸とがんとの関連が研究されています。酪酸そのものは腸に必要な物質であり、酪酸を産生する菌は他にも数種あって、Clostridium butyricum の宮入株は酪酸菌製剤として、腸炎の治療に有効です。しかし一方、酪酸が潰瘍性大腸炎という難病の病態を悪化させるという研究もあり、酪酸に関するさらなる研究が進められています。

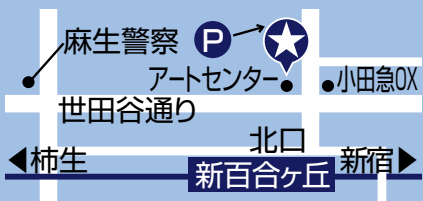
今後、大腸がんが抗生剤で予防・治療できる日が来るかもしれません。歯石、舌苔など口腔内のケアも大切です。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>